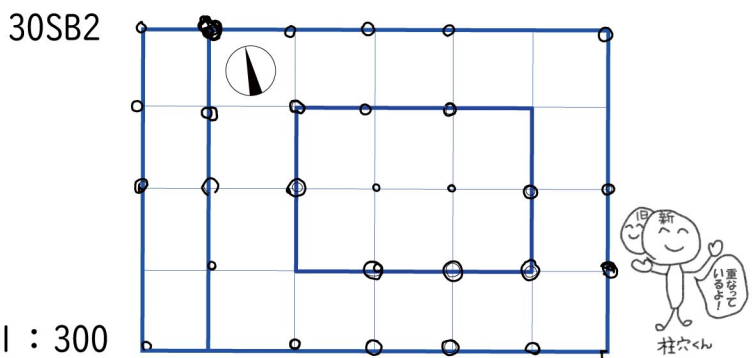
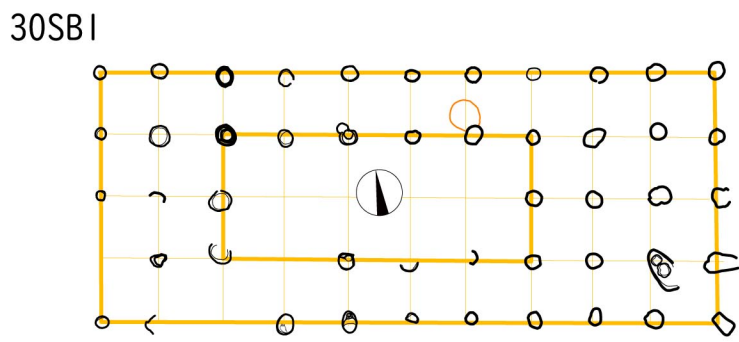
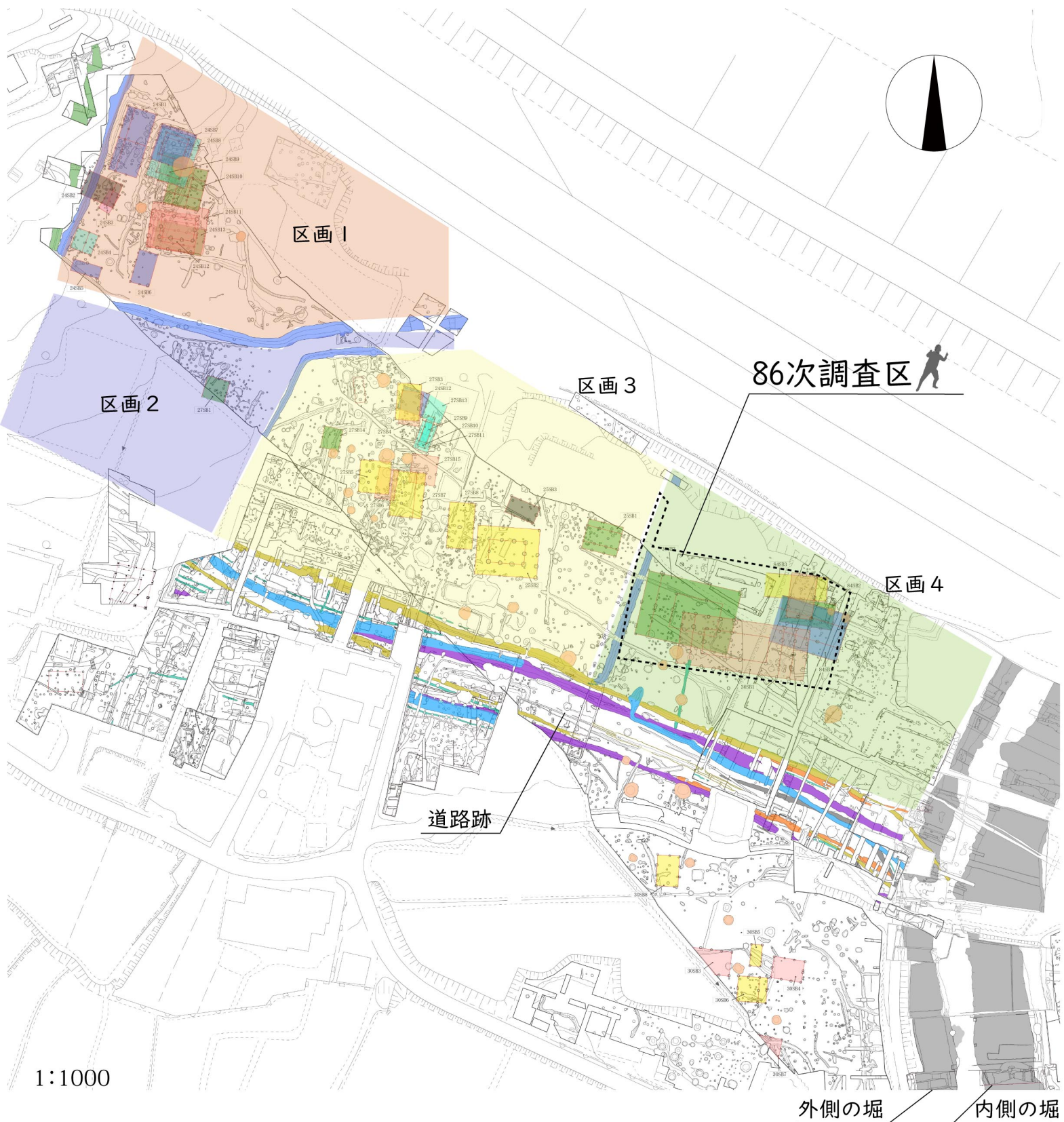




柳之御所遺跡 第86次調査

現地説明会資料



令和6年11月9日（土）午前10：30～

調査要項 調査期間 令和6年9月1日～11月30日

 調査面積 約800㎡

 調査機関 岩手県教育委員会

1. 調査目的

- ①大型建物の内容確認
⇒堀外部地区で最大級の建物跡など、これまで全体を一度に確認できていない
⇒足りない柱穴がある
⇒建物の全容を解明して構造を検討する材料とする
- ②区画内の内容確認→区画内はどのような遺構で構成されるか？

2. 調査成果

- ①これまで未確認の柱穴をあらたに検出し、大型建物（30SB4・30SB2・84SB1）の全容を確認した。大型の建物跡は以下のとおり。

30SB1	梁行4間・桁行10間	四面廂建物カ	全長24.5m・幅10m	床面積245㎡
30SB2	梁行4間・桁行6間	四面廂建物	全長18.6m・幅12.6m	床面積234㎡
84SB1	梁行4間・桁行7間	二面廂建物	全長17.2m・幅9.2m	床面積158㎡
- 各建物を構成する柱穴をほぼ確認できた。そのほか中小規模の建物跡も複数検出しており、現在構成を検討中である。
- ②この区画では、大型建物が集中する空間であること、建物の周囲には井戸跡が集中することなどをあらためて確認した。また、建物跡から道路跡までの間には一定の空間が空いているようである。建物の向きと道路の方向が異なることから、道路に面した建物ではないかもしれない。

3. まとめ

- 30SB1は桁行が10間もある長大な建物で、現在のところ、堀外部地区では最大規模の建物である。この建物を含む今回の区画（区画4）は、堀外部地区でもっとも有力な区画と考えられる。烏帽子が出土した井戸跡もこの建物のすぐ南側にあることとあわせて、堀内部地区にもっとも近い区画に最有力の人物がいた可能性がある。
- 30SB1は構造が中心建物である28SB4に類似するが、柱と柱の間の距離（柱間寸法）がそれより短いことから、堀内部地区の中心建物よりは床面積が小さく、格式がやや劣る可能性がある。また、その構造については類例が少なく、どのような構造や外観をしていたか、現在のところよくわかっていない。今後、整理過程を通じ検討したい。

